地 域 の 友

ふじもり

第 5 4 号

発行：台町市民センター住民協議会広報部
八王子市台町 3-20-1
八王子市台町市民センター
電話　042-627-3808
(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団

台町市民センターまつりは 10/26(土)～10/27(日)

住民協副会長　大日向　宏

世界中を席捲し猛威をふるった、感染症新型コロナ。その感染防止のため、各種団体は三密を避ける等あらゆる活動をおさえ、ひかえめにすることを三年ほど求められ、活動停止状態が続きました。台町市民センターの活動も、例外ではありません。

活動は停止し、活動できない苦しみをいやという程味わいました。三年もの間続いたコロナ禍も感染防止の取り組みが功を奏し、活動の幅が少しずつ拡がり、今年度は大幅に緩和されるまでになりました。六月一日に開催された台町市民センター住民協総会では、例年通りの内容の活動方針が全会一致で承認されました。活動の再開です。

住民協議会の中で大きなウエイトを占めるのは毎年10月に行われる「台町市民センターまつり」であり、その準備が各部の取り組みとして始まっています。センターに結集している二十二町会・自治会の皆さん、どうぞ開催日にはご家族連れだっておいでくださるようお願いいたします。

作品展については、募集、展示、撤収、片付けを含め、展示の一切を総務部が担当します。例年団体で作品を出してくださっている八王子特別支援学校、市立第七小学校、八王子盲学校、グループホームほのぼのへは、今回も作品を出してくださるように総務部長、作品募集、展示の中心となって毎年活動くださっている中村さんと私の三人で、お願いに行ってきました。

各代表からは快く受諾して頂きました。例年出品して頂いている個人には九月初旬、出品依頼の文書をお出しすることにしています。町会を通じては七月の下旬、回覧で作品募集の案内をお届けしました。どうぞ今から作品制作に取り掛かり、たくさんの作品をお寄せ下さい。期待しています。賑やかなセンターまつりを皆さんの力で作り上げましょう。

台町市民センターに協力する二十二町会の現状

住民協事務局長　宍倉孝之

日頃より、台町市民センター住民協議会に対し、ご協力ご支援いただきありがとうございます。最近ニュース等で、またコロナ感染が増えてきておりますが、今年の台町市民センター祭りにつきましては、予定通り開催する方向に進めております。当会につきましては二十二町会でのご協力により成り立っております。最近地域に於かれましては役員のなり手がいないと、役員の選定に苦労しているのが現実です。町会・子供会育成会の団体については特に厳しい状況にあります。例えば子供会育成会につきましては、子供達の習い事（サッカー・野球他）土日の大半が送迎・付き添い・応援等があり役員選定時に相当苦労しております。ある地域では役員のなり手がなく渋々、会を終了してしまう所もあります。子供会は一度会を終了させてしまうと再度復帰するときにかなり大変と聞いております。また町会ともなりますと役員の選定の悩みと同時に高齢化が進み、止むを得ず従来のまま遂行しているのが現実ではないでしょうか。ここ最近、台町市民センター住民協議会でも同様に改選時になりますと、役員（本部役員・総務部部長・文化部部長・体育部部長・広報部部長・図書部部長）の選定に苦労しております。センター祭りになりますと、約百名のスタッフ役員で対応させて頂いております。

本部を含め各部会も事前打合せを実施し、センター祭り当日に向けて会場設営・撤収等メンバー全員の力が必要なくらい大変なイベントとなっておりますが、撤収時となりますと一部の方々だけで対応しているのが現実です。今後も二十二町会協力の下で台町市民センターまつりを盛り上げて誰でも参加できるイベントにして頂ければ幸いです。今後とも台町市民センター住民協議会の更なる発展にご協力ご理解の程お願い致します。

連絡を密に！

台町市民センター住民協議会
副会長　渡辺豊久

梅雨が明けると猛暑になり、なかなか気象に身体がついていけません。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

台町市民センターは、6月一日に総会が行われ、本年度の方針が決まりました。

各部の役員も決まり（下記参照）各部の活動が始まりました。

各部へのお願いがあります。新しい体制になった今、各部の部長さんは、出来るだけ早く各部会の開催をお願いします。

「私はある部に配属されましたが、何をやって良いのか解かりません」という声が聞こえてきます。

部会を開き、この一年間何をするかを皆様に説明してください。そして、各部内のコミュニケーションを高め、各部の活動が動きやすい方向に導いてください。私の担当は広報部ですが、今年すでに二回の部会を開いております。

そして広報部は、幅広い記事を載せるため、広報部以外の人を交えて開き、記事を作成しております。

〝ふじもり〟は台町市民センター設立以来、年二回の発行を続け、今回は五十四号の発行となりました。

皆様方にお願いがあります。〝ふじもり〟の記事の充実のために、ご意見、ご感想をお聞かせ頂けたら幸いです。よろしくご協力の事、お願いいたします。

八王子祭り山車辻合わせ

令和六年度役員紹介

役員

会長	清水　努
副会長	渡辺　豊久
〃	杉山耕太郎
〃	田邊　征夫
〃	大日向　宏
事務局長	宍倉　孝之
会計	佐藤　富雄
〃	高橋　始
監事	中森　賢一
〃	佐藤　将

総務部

部長	有川　勝彦
副部長	伊藤　裕司
〃	小川　博司
〃	戸田　弘文
〃	小岩井　勝
〃	加藤　正幸
〃	西野　雅保
〃	直井　進
〃	水野　泰隆
〃	木村　直美
〃	澤村　彰一
〃	白倉　博
〃	石坂　俊雄

文化部

部長	久保美代子
副部長	塚本　道男
〃	古怒田ヒサ
〃	酒見　精治
〃	中台　亮子
〃	中嶋　長吉

体育部

部長	岡本　行雄
副部長	師岡　由治
〃	三代川洋次
〃	福島　和義
〃	長谷部建司

広報部

部長	杉本ヨシ子
副部長	外山まさみ

図書部

部長	田中　恭男
副部長	中村　雅子
〃	佐藤　富雄
〃	山合　一男

台町市民センターからのお知らせ

いつも台町市民センターをご利用いただき誠にありがとうございます。

市民センターでは、令和七年一月（予定）より、八王子市のスポーツ施設や生涯学習センター等で使用されている、施設予約システムが導入されます。

利用者の皆様には事前登録にご協力頂き、感謝申し上げます。

まだ、登録されていない利用者様は、事前登録期間を終えても登録は随時可能ですので、窓口までお声をかけてください。

また、新システムによる施設ご予約開始時期に合わせ、「利用者向け説明会(高齢者向けスマートフォン相談会)※対象：六十歳以上」を、十月二十三日(水)に行います(個別対応を予定)。お気軽にお越しください。

なお、説明会は、他市民センターでも行う予定です。日時等は、センター窓口にお問い合わせください。

各部会事業計画

広報部会

ふじもり　５４号、５５号発行
センターまつりポスター作製
各イベントの写真撮影

本部

定期総会　　６月
センターまつり　　１０月２６日、２７日
役員会、運営委員会
センター周辺除草

体育部会

輪投げ大会　　９月、３月
ミニバスケット大会　３月
包丁研ぎ

総務部会

センターまつり（展示部の設営）
総務部会（地域ふれあい講座）
センターまつり　１０月
ふれあい講座　　１１月

図書部会

読み聞かせ会
本の貸し出し
センターまつり　古本市

文化部会

センターまつり　　芸能大会　１０月
　　舞台つくり、盆踊り大会
囲碁将棋大会　　３月

武田信玄の四女 松姫様の生涯

図書部　中村雅子

台町市民センターに程近く、市立第七小学校の斜め向かいに、信松院があります。八王子の歴史を語る上で欠くことのできない松姫様が開いたお寺です。今回は、松姫様の生涯を辿ってみましょう。

松姫様は、武田信玄の四女として永禄四年（1561年）に甲府の『躑躅ヶ崎館』でお生まれになりました。

松姫様七歳の時、武田・織田の同盟関係を強固にするため、織田信長の嫡子当時十一歳の織田信忠様と婚約します。まだ幼い両人は、成長を待つ間生家で育ち、顔を合わせることなく文通によって親愛の情を深めていきました。

しかし、元亀三年（1572年）三方ヶ原の戦いにおいて、信玄に敵対する徳川家康に織田信長が援軍を送ったため、この婚約は破棄されてしまいます。翌年天正元年（1573年）には武田信玄が没し武田勝頼の代になりましたが、松姫様は数ある縁談に首を縦に振ることなく甲府で過ごしておられました。

天正十年（1582年）三月、武田勝頼は、徳川・織田両軍との天目山の戦いに敗れ討死。名門武田家は滅びてしまいます。

高遠城に滞在していた松姫様は、急ぎ甲府に戻り、兄信盛の娘の督姫など四歳の姫君3人の手を引き、僅かな供と護衛の武士と共に北条家を頼りに落ちていきました。

甲斐の向獄寺からの紹介状を手に寺から寺へ一夜の宿を乞いつつ一ヶ月半後に辿り着いたのが、和田峠を下った恩方の里にあった金照庵でした。

金照庵に落ち着いた松姫様のもとに松姫様の行方を探していた織田信忠様から、正室になってくれとの手紙と迎えの者達がやってきました。

幼き頃より松姫様を想う信忠様も、また正室を持たずにいたのです。松姫様はやっと信忠様に会える喜びを胸に、京都への旅立ちを決意しました。

しかし、程なく本能寺の変により、信忠様が自刃したとの知らせが届いたのです。

傷心の松姫様は、恩方の名刹心源院にて出家しました。御歳二十二歳。出家後は仏道修行に励み武田家の人々そして信忠様の菩提を弔う日々を送りました。

天正十八年（1590年）松姫様は、御所水弁財天の辺りに庵を結ばれました。

同年、北条氏照が守る八王子城が秀吉に攻められ陥落。八王子は、家康の地行地となりました。

家康は、大久保長安に八王子の代官を命じ、差配を任せました。そして武田の姫が八王子にいると聞き、現在信松院がある地に手厚く寺領を与えました。

武田の遺臣の大久保長安や武田の遺臣で構成された千人同心たちにとって、松姫様の存在が心の拠り所になったことは想像に難くありません。

松姫様は、仏道に励む傍ら、里の子供たちに読み書きを教え、得意の機織りの技術を伝授しました。それが後の八王子織物隆盛の礎となったと、言われています。

また甲府から連れてきた姫君たちも、立派に育て上げました。

二代将軍秀忠が、隠し子の保科正之の養育を、松姫様に託したとも伝えられています。松姫様のたおやかでありながらしっかりとした生き方を、見込んでの事でしょう。

松姫様は元和二年（1616年）に、五十六歳でその生涯を閉じました。今は信松院の墓地で、静かに眠っています。

坐像を所蔵している信松院

松姫様坐像